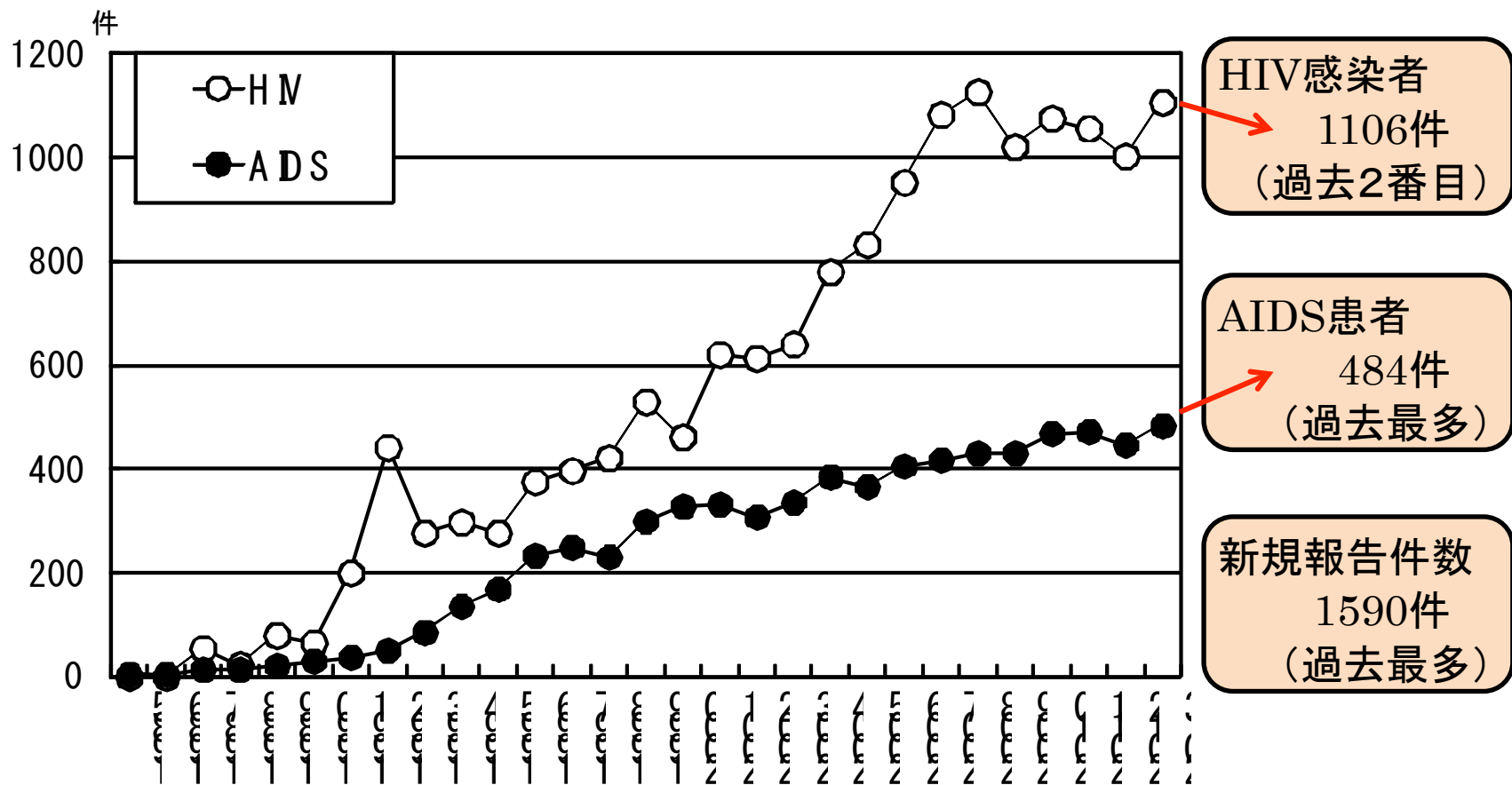


衛生微生物技術協議会
第35回研究会
レファレンスセンター等報告会

13 HIV関連

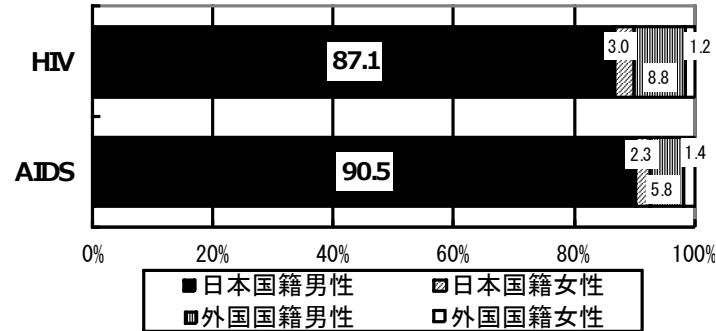
動向：HIV感染者およびAIDS患者の年次推移



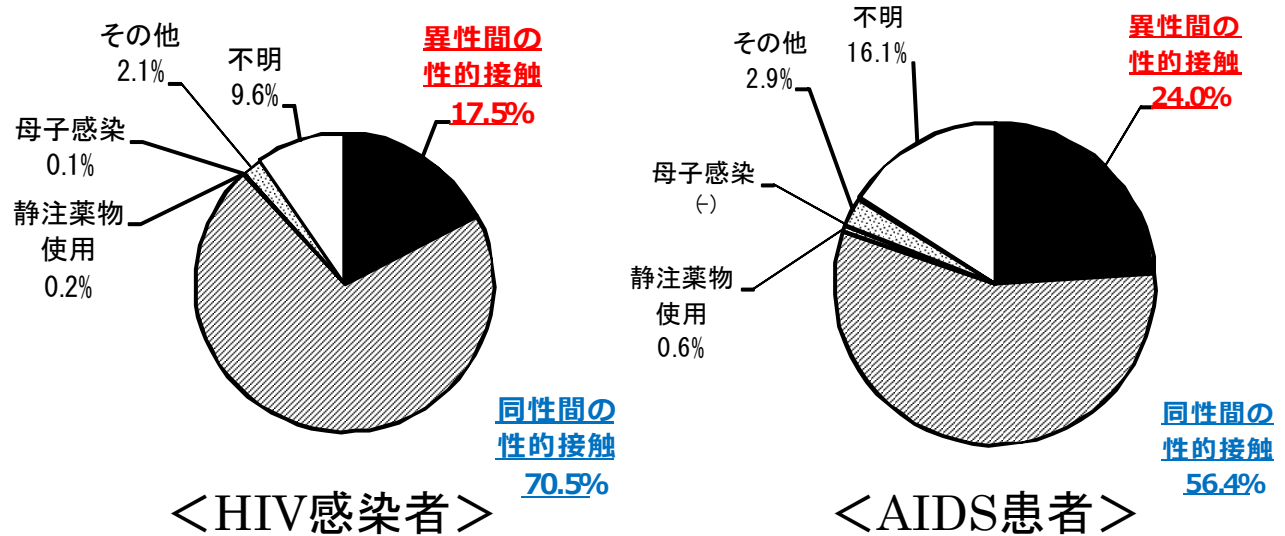
(2013年 エイズ発生動向—概要— (厚生労働省エイズ動向委員会発表)より引用)

動向:新規報告例の国籍・性別・感染経路内訳

a) 国籍・性別



b) 感染経路



(2013年 エイズ発生動向—概要— (厚生労働省エイズ動向委員会発表)より引用)

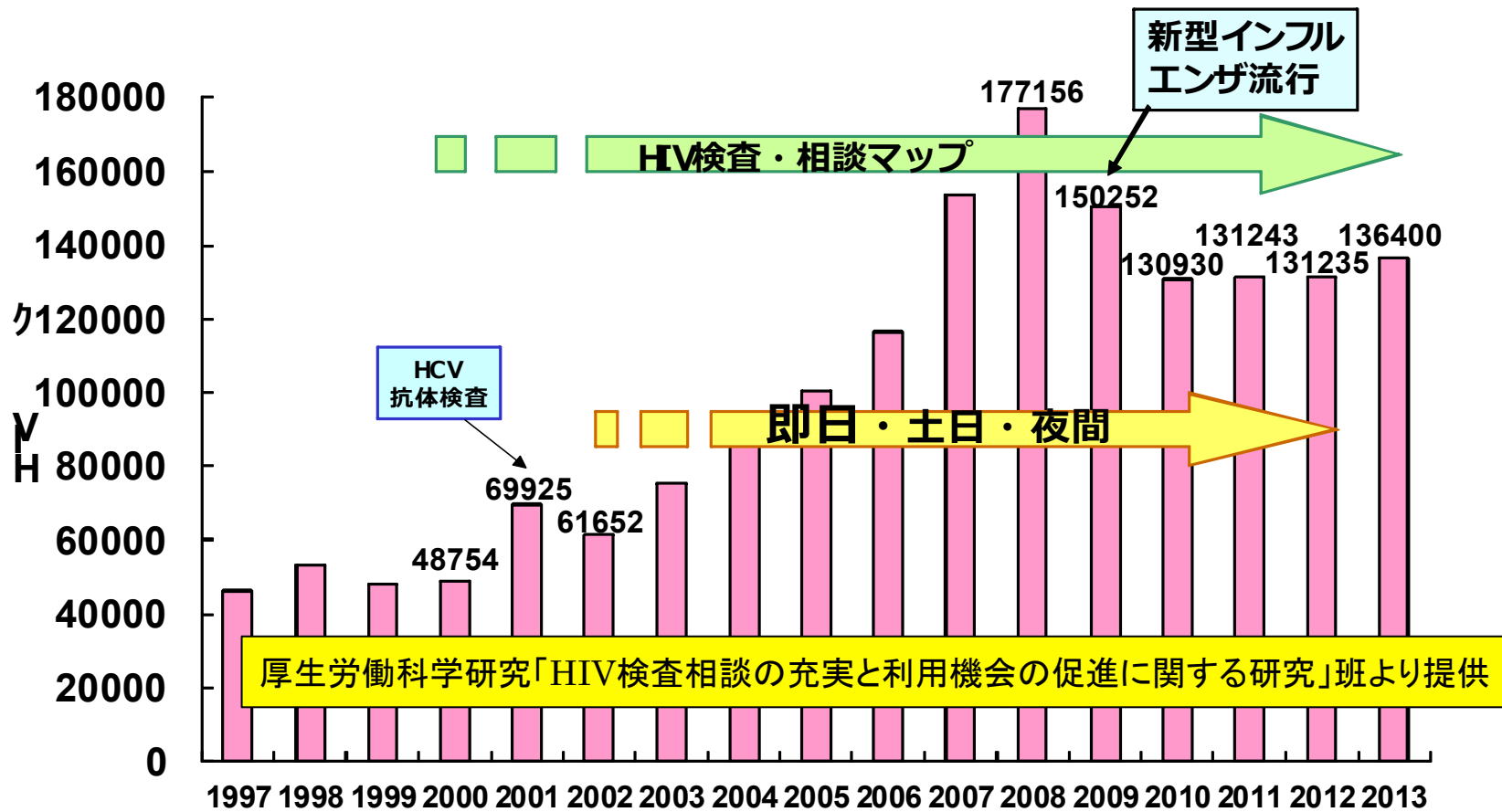
動向：年齢別HIV感染者およびAIDS患者報告数

「年齢では、HIV感染者は20歳代、30歳代に集中しており、AIDS患者では20歳以上に幅広く分布し、特に30歳代、40歳台に多い。60歳以上のHIV感染者(70件)及びAIDS患者(79件)報告数がいずれも過去最多となった。」(2013年 エイズ発生動向 -概要- より)



中高年層がAIDSを発症する前に検査にアクセスしやすくなるような対策が必要では？

検査体制：保健所等無料HIV検査の検査数(1997 - 2003)



2013年、HIV感染者に対する保健所陽性数の占める割合：453 / 1106 (41%)

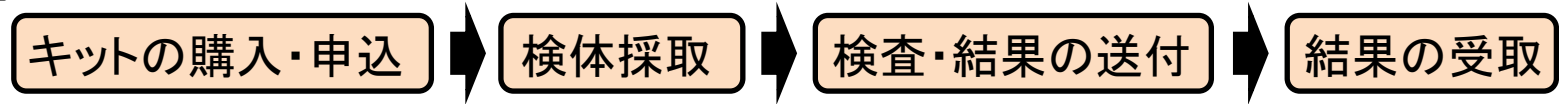
検査体制：保健所・特設検査機関（アンケート調査）・民間クリニック

	保健所 (493 / 579, 85%)	特設検査機関 (18 / 23, 78%)
2013年に陽性結果があった施設数	113 / 493 (23%)	15 / 18 (83%)
陽性件数	240 / 93,408 (0.26%)	142 / 23,318 (0.6%)
陽性結果を伝えられた件数	224 / 240 (93%)	132 / 142 (93%)
受診したことを把握できた件数	185 / 240 (77%)	112 / 142 (79%)

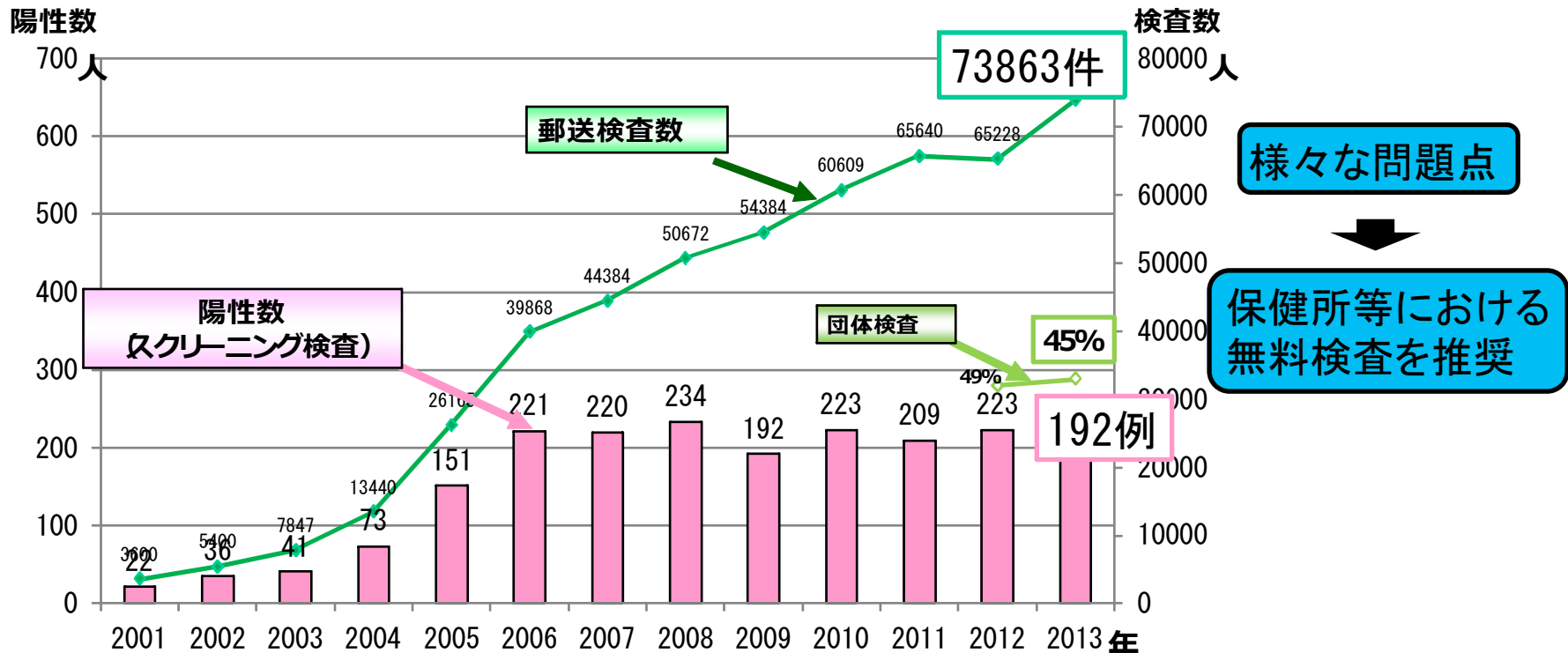
※他に民間クリニックへの即日検査導入支援：2014年2月現在、14都道府県に36箇所

検査体制：HIV郵送検査の動向

a) 流れ



b) 検査数と検査陽性数の推移



厚生労働科学研究「HIV検査相談の充実と利用機会の促進に関する研究」班より提供

HIV薬剤耐性の動向

※ 近年、抗HIV薬開発の進歩と多剤併用療法の確立、良好な服薬アドヒアランスの維持により、耐性変異出現頻度は下がってきており、新たな深刻な薬剤耐性変異の問題は報告されていない。

※ 全国薬剤耐性調査ネットワーク(2003-)により收拾されている遺伝子配列の調査の結果から、国内における薬剤耐性変異の保有頻度は約10%であり、耐性変異を持つウイルスが、未治療・未診断者を介して限局した集団の中で拡大・定着している傾向が観察されている。

第25回HIV検査法(PCR法等)技術研修会

プログラム(案)

日時

平成26年10月8日(水)～10月10日(金)

実習内容

「KK-TaqMan」・・・定量PCR
「薬剤耐性検査」・・・シーケンシング
「HIV-1の臨床現場の見学」

講義内容

「HIVの基礎知識」
「HIVの遺伝子検査」
「シーケンスの原理」
「HIV検査法概要」
「HIV-2の検査」
「HIV-1感染症治療と薬剤耐性」
「系統樹解析とサブタイピング」

診断技術の維持・向上と
情報交換を目的とする。
(IASR, 34:256-257, 2013)

感染急性期等、抗原陽性で
抗体陰性または弱陽性のため
ウエスタンブロット法による
確認検査が困難な場合や、
感染母体からの新生児の
感染診断に有用。